

# サポート

No. 206

令和7年3月3日発行

県教育庁特別支援教育課指導チーム

## 第22回 秋田県特別支援学校文化祭

### 第3回わくわく Show time

12月11日、全県の特別支援学校をオンラインでつなぎ「第3回わくわく Show time」を開催しました。オンラインで開催するにあたり、11月にリハーサルを行うなど、全県の特別支援学校と協力して準備にあたりました。

当日は、秋田県高等学校文化連盟の協力の下、秋田工業高等学校吹奏楽部によるファンファーレ（動画）で開会し、秋田大学教育文化学部附属特別支援学校の附特竿燈、横手支援学校の全校合唱アンサンブル、栗田支援学校の栗田祝い太鼓、視覚支援学校の音楽劇、大曲支援学校せんぼく校のせんぼく太鼓など、学校の特色を生かした内容を動画で発表し合いました。発表校に向けた感想発表や、全県の学校が一体となって行ったダンスは、生中継で行いました。また、12月11日から20日までオンデマンド配信を行い、当日参観できなかった児童生徒や保護者にも見ていただくことができました。

児童生徒からは、「他の学校の発表が楽しかった、もっと見たい」「カメラの前で他の学校の人と手を振り合ったのが楽しかった」という感想がありました。また、参観した保護者からは「他校の発表や様子が見られてよかった」「他校の発表を楽しそうに見ている児童生徒が多かった」との声が聞かれました。

オンラインを活用しての発表は今年度で一区切りとなり、令和7年度は「あきた総文2026プレ大会」、令和8年度は「あきた総文2026本大会特別支援学校部門」での発表となります。各校が工夫を凝らし、生徒が主体となって活動できるよう、あきた総文特別支援学校部門生徒部門別部会等と協力しながら準備を進めていきます。



【配信の様子（天王みどり学園）】



【全校で視聴している様子  
（比内支援学校たかのす校）】

（天王みどり学園 教諭 加藤 麻美）

## インクルーシブの風

このコーナーでは、インクルーシブ教育システムの推進の観点から、各校種等における特別支援教育に関する取組や交流及び共同学習の様子などを紹介していきます。

「特別支援学級実践研修」は、提示授業に基づく協議等を実施することにより、特別支援学級担任の実践的指導力の向上を図る研修です。今回は自立活動の指導において、ICTを効果的に活用した取組を2事例紹介します。

### 自立活動の指導におけるICT活用実践 ～美郷町立六郷小学校～

美郷町立六郷小学校 病弱・身体虚弱特別支援学級（2年生1名）の自立活動の指導におけるICT活用実践を紹介します。

体を動かすことが大好きで、友達と元気いっぱいに過ごしている児童ですが、疲れたときは十分に休息したり、転倒等による出血や打撲に注意したりする必要があります。

そこで、本単元「たのしい学校～まいにち元気ががんばるために～」では、自分で体調を確認することや校内外の危険を回避することについて学習しました。今回紹介する実践は、校内での安全な過ごし方について学んだ授業の様子です。

本授業の前時に校舎や校庭を回り、自分で危険だと感じる場所の画像を1人1台端末で撮影しました。撮影した画像の危険箇所に端末上で印を付けたり、安全に歩行できる動線を書き込んだりしながら危険回避について考えました。また、休み時間の体育館使用の様子について教師が撮影した動画と体育館の模式図を見ながら、安全な過ごし方を考えました。

学習のまとめでは、板書と同じ内容のプリントを用意し、児童や教師が撮影した画像を使用することで、まとめがしやすく、学んだことへの理解が深まるよう工夫をしていました。

気軽に撮影することができ、また容易に画像の拡大や縮小、動画の早送りや巻き戻しができるという1人1台端末の特徴を生かして学習を進めることで、実際の学校生活での「安全な過ごし方」「危険な場所の避け方」を身に付けることにつながりました。



【危険箇所や動線を記入した画像】



【体育館の動画や体育館の模式図】



【画像や動画、板書と連動したワークシート】

（南教育事務所仙北出張所 指導主事 大川 浩平）

## ICT活用能力を高める自立活動の実践 ～能代市立湊城西小学校～

能代市立湊城西小学校 自閉症・情緒障害特別支援学級（４年生１名）の自立活動の指導におけるＩＣＴ活用実践を紹介します。

「先生の『好き』をさぐれ！聞き取り名人になろう」という単元名で、校内の先生にインタビューをして「先生クイズ」を作り、交流学級の友達に知らせる学習活動です。活動を通して、コミュニケーションを円滑に行う力や、最後まで課題をやり遂げ、自信をもって様々な活動に取り組もうとする力を高めることをねらいとしています。

やり取りのポイントとなる台詞を導入場面で確認したことで、実際のインタビュー場面では、自分から質問したり会話を広げたりできました。得意な方法を生かし、聞き取ったことをタブレット端末に入力してメモを取りました。その際には「メモするので少し待ってください」という台詞も忘れずに話すことができていました。

インタビュー後は、録画した映像を見ながら、インタビューで聞き取った内容を確認しました。メモを基に「先生クイズ」を作成する活動においても、タブレット端末を活用することにより、「文字を書くこと」ではなく、「言葉の表現を工夫すること」に集中することができ、すてきな表現が生まれていました。

自分にとって得意な方法を知り、活用できる力を身に付けることで、本来の学習のねらいに向かって存分に力を発揮していく姿を見せていただいた授業でした。本児童にとって、文字起こし機能等も将来役立つと考えられます。今後も実践を重ね、本人自身が、自分に合った学習方法を模索し工夫しながら成長されていくことを期待しています。



【インタビューでタブレット端末に入力してメモする様子】



【インタビューの仕方や内容を動画で振り返る様子】



【表現を思考しながらクイズを作成する様子】

(北教育事務所山本出張所 指導主事 鎌田亜希子)

### ICT活用実践事例集

県立特別支援学校のＩＣＴ活用実践事例をまとめて紹介しています。  
ぜひ御覧ください。

<https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/2168>



## 学校間交流、居住地校交流の充実に向けて ～比内支援学校かづの校～

本校の交流及び共同学習では、「共に育ち、共に学ぶ」ことを大切にしています。

小学部では、鹿角市立花輪小学校の3年生の児童と学校間交流、居住地校交流を行いました。両校の児童が相互理解を深めることができるよう、小学校の学級担任と本校教員が連携し障害理解授業（出前授業）を2回実施しました。双方の児童が学習のねらいを達成するために、工夫したことは次の4つです。



【疑似体験：目隠して2種類の果物に触れる】

|    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事前 | <p>○児童の発達の段階やこれまでの学習、交流経験を踏まえた障害理解授業のねらいや内容・回数<br/>数の設定</p> <p>【1年生】①「じぶんとはちがういろいろな人がいるよ」 ②かづの校の紹介<br/>③居住地校交流をする児童の紹介</p> <p>【2年生】①「ゆっくりタイプの人があるよ」 ②かづの校の紹介<br/>③居住地校交流をする児童の紹介</p> <p>【3年生】<b>1回目</b> ①「見えない、見えにくい人について知ろう」 ②かづの校の紹介<br/>③小学部の児童の紹介</p> <p><b>2回目</b> ①居住地校交流をする児童の紹介 ②交流当日の活動について（相談）</p>                                                                                                                                               |
| 当日 | <p>○小学校の学級担任と特別支援学校の学級担任、地域支援部担当がTTで障害理解授業を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動画や写真を活用して、小学部児童の得意なことや好きなことを紹介</li> <li>・授業では、困難さがあることだけを強調して終わらず、いろいろな工夫があることでみんなと一緒に活動できることを伝える</li> <li>・障害理解授業のテーマに応じた疑似体験を実施</li> </ul> <p>○交流当日の教材教具の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションツールの活用（例：音声出力ボタン、タブレット型端末音声アプリ）</li> <li>・視覚支援教材の活用（例：始めの会や終わりの会のスケジュールを電子黒板で示す、楽しかったことを伝えるときにイラストカードを用いる、ひらがなで名前を表記したオリジナル名札の着用）</li> </ul> |
| 事後 | <p>○小学校：「振り返りシート」を活用した事後アンケートの実施（交流児童、学級担任）、招待状や手紙の作成</p> <p>○かづの校：写真などを活用した交流の振り返り、手紙の作成</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |

交流後、小学校の児童からは「障害をもっている人でも、タブレットを使ったり、ボタンを使ったりしていて、いろいろな工夫があることが分かりました」などいろいろな友達がいることや、様々な工夫があることへの気付きに関する感想が聞かれました。他にも「また、交流できたら、違う遊びで一緒に遊びたいです」と次回の交流を楽しみにする児童もいました。かづの校の児童も、「会えて嬉しい」と言葉で伝える様子が見られました。今後も、児童同士、さらには教員同士が共に育ち、共に学ぶ交流及び共同学習を推進し一歩ずつ地域における共生社会の実現を目指していきたいと考えています。



【みんなで協力してゲーム活動！  
「バルーンでPON！」】

## 特別支援学校の特色ある取組紹介

### 作業学習製品販売「ショップくりた」～栗田支援学校高等部普通科～

栗田支援学校では、地域で行う作業学習製品販売「ショップくりた」を市内数か所で年間複数回行っています。令和5・6年度は、県庁第2庁舎7階でも開催しました。



【各課にパンフレットを配付】



【好きな色を伺い、受注製作】

【事前】各販売場所で打合せを行い、場所に応じた周知方法や当日の活動などについて確認します。第2庁舎では、教育庁各課へのパンフレット事前配付と、当日の受注製作、購入者アンケートを実施することとし、当日に向けた学習活動を計画しました。



【当日】販売開始からたくさんの方が来てくださり、作業学習製品を手に取り、購入してくださいました。製品説明やお客様とのやりとりの難しさを感じながらも、たくさんの方に買っていただくことで達成感を味わいました。



【事後】記入していただいたアンケートと生徒一人一人の振り返りを基に、次の販売に向け「もっと製品の説明をできるようにしよう」「会計をもっと正確に、早くする方法を考えよう」と生徒の学習に対する意欲が高まりました。

(栗田支援学校 教諭 佐藤 美幸)

## 特別支援学校の特色ある取組紹介

### 校外臨床実習「理解啓発マッサージ」～視覚支援学校理療科～

視覚支援学校の理療科では、生徒が、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の国家資格取得と資格を生かした自立を目指し、日々学習に励んでいます。学習内容は多岐にわたり、人体の構造や機能、各種疾患、東洋医学といった幅広い知識を学ぶ座学での学習に加えて、施術の力を身に付けるための実習も行います。校内外での臨床実習は、学びを深める上で重要な機会です。

新型コロナウイルス感染症による制約がなくなった今年度は、理療科の取組とマッサージへの理解を深めていただくことを目的に、校外臨床実習の一環として、「理解啓発マッサージ」を企画しました。校内の臨床実習室での実習とは異なり、多様な症状をもつ患者さんを対象とするため、生徒にとっては、コミュニケーション能力、観察力、そして柔軟な対応力が求められる場となります。

「理解啓発マッサージ」は、秋田市内2か所で計3回実施し、うち1回は教育庁の皆様のご協力で実現しました。当日は、理療



【教育庁ホールでのマッサージ】

科の学習内容や卒業後の進路等について説明した後、合計22名の方にマッサージをさせていただきました。長時間のデスクワークによる首や肩、背中の不調を訴える方が多く、手指の痺れや肩関節の可動域制限といった、校内実習では遭遇しにくい症状への施術も経験できました。施術を受けた方からは、「体が楽になり癒された」「このような形で実習していることが分かった」等の感想をいただきました。

今回の実習を通して、生徒は、患者さんの症状の背景にある生活習慣や悩みを理解することの重要性を学びました。施術を受けてくださった皆様に笑顔にすることができ、生徒にとっても、理療の仕事のやりがいを感じる機会となる「理解啓発マッサージ」を、今後も継続していきたいと考えています。

(視覚支援学校 教諭 河嶋 真)

## 特別支援学校の特色ある取組紹介

### 介護ロボット体験学習会 ～稲川支援学校～

高等部1年生と介護職員初任者研修を受講している高等部2年生の生徒を対象に、「～介護の仕事魅力発見事業～介護ロボット体験学習会」を行いました。高等部1年生は、様々な職業への理解深めることを、介護職員初任者研修受講者は、介護職員の必要性や介護職のやりがい、介護ロボットを活用することで生じるメリットなどについて理解することをねらいに実施しました。

体験学習会では、始めに介護の仕事について実際の介護現場についての動画を見たり、介護ロボットを活用している事業所での実践発表を聞いたりして、介護職への理解を深めました。実践発表では、介護職員、被介護者の双方が安全安心な環境を整えられるように、移乗用リフトを導入するなど、「ノーリフティングケア」の推進が進められていることを学びました。体験では、ベッドでのセンサーや電動車椅子を実際に操作、体験しました。ベッドマットの下にセンサーマットを敷くだけで、利用者の状況を確認・把握できる見守りセンサーでは、実際にベッドに横になることで、心拍や覚醒状況が画面に表示される様子が驚きを見せていました。また、電動車椅子は、コンパクトで小回りがきくことや、簡単に分解して持ち運びできること、操作が簡単なことなどを体験し、「便利でかっこいい」、「積極的に移動したくなる」などの声が聞かれました。

介護ロボットを活用することで、介護職員の心身の負担が軽減されるというメリットがあるだけではなく、被介護者の生活を豊かにし、安心・安全な生活に繋がるなど被介護者にもメリットがあることが分かり、介護をしていく上で必要なことを再確認することができました。体験した生徒からは「利用者の安全が守れる」、「職員の負担が減る」などの感想が聞かれ、とても充実した体験学習会となりました。



(稲川支援学校 教頭 時田 航)

#### 令和6年度文部科学大臣優秀教職員表彰



秋田きらり支援学校の  
藤井 奈緒子 教諭(兼)  
教育専門監が、令和6年度  
文部科学大臣優秀教職員  
表彰を受賞しました。  
おめでとうございます。

#### 第17回キャリア教育優良学校文部科学大臣表彰



大曲支援学校が、第17回  
キャリア教育優良学校文部科  
学大臣表彰を受賞しました。  
おめでとうございます。